



防災訓練における避難所訓練の様子

A. 本市の推定される避難者数は、埼玉県が実施した平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査により算出されており、ただ、大規模災害の際に全員が避難所に入るという想定はしておらず、住居が倒壊する恐れなどがある人のみ避難所に移っていただくことを考えています。

また、食料も含めた避難物資は、各避難所に加えて防災備蓄倉庫に備蓄しています。これらの物資は避難所の人だけでなく、自宅避難の人も受取可能ですが、可能な範囲でご自身での備蓄をお願いします。

Q. 災害時の避難場所は、小学校となっていますが、住民数からすると収容人数としては足りません。

防災・防犯

A. 駅周辺の商店街には、経済産業省の補助金を利用して防犯カメラを多く設置しています。住宅街に設置する場合には、プライバシー侵害を不安に思う人もいます。最近ではカメラの性能が上がり、設置費用が下がっていますし、自動販売機にカメラが付いているタイプもあります。プライバシー侵害を避けつつ、犯罪防止と抑止のため住宅街に一定程度付けていくことを検討していきたいと思っています。

Q. 防犯カメラを設置してほしいと考えています。

A. ながら防犯として、散歩などをしながら地域の目を増やす活動や、ボランティアが行う青色防犯パトカーが市内を巡回して犯罪を抑止する活動を行っています。東入間警察署と連携してパトロールの強化を図るなど、高齢者の多く住む住宅地で増えてきている状況も含めて対応を考えていきます。

Q. 最近、空き巣被害が多く見られます。地域の連帯による隣近所の見守りが抑止に一番です。市の取り組みをお聞かせください。

令和6年度 タウンミーティングの報告

未来に向けて 今、ここから



タウンミーティングは、市民の皆さんが市長と直接意見交換ができる場です。市の取り組みや予算などを市長が説明した後、皆さんからのご意見をいただいています。

高畑市長が就任して以来実施しているタウンミーティング（コロナ禍は、自治組織の会長と懇談を実施）。これまでに、合計372回開催し、延べ1万2000人を超える皆さんにご参加いただきました。

令和6年度のタウンミーティングは、55の自治組織で開催予定で、1月末現在で1261人にご参加いただきました。今年も、ふじみ野市誕生20周年を迎える節目の年になりますが、これからの成長していくという思いを込めて「未来に向けて今、ここから」というテーマで実施しています。

参加者の皆さんとの意見交換の中で、さまざまなご意見をいただきましたので、その一部をご紹介します。今まで実施したタウンミーティングのご意見は、市ホームページで公開しています。



子育て・教育

Q. ボール遊びが禁止されており、近くにそのような場所がありません。そうしたことができる場所が近くにあると良いと思います。

A. 近年は子どもたちにボール遊びをさせては危ないという世論の声もあり、ボール遊びは禁止という流れになっています。市では、福岡中央公園で自治組織と連携して、ボール遊びが可能なエリアを作りました。このような動きを全市的にも波及させたいと思っています。エリアを限定し、一定のルールのもとでボール遊びができるよう、地域の人と協力し、子どもたちを育てるという姿を実現したいと考えています。街中にそういった機運を起こしていきたいと考えています。



Q. 小・中学校では、水泳の授業で民間のプールを利用しています。老朽化した学校プールはどうするのでしょうか。

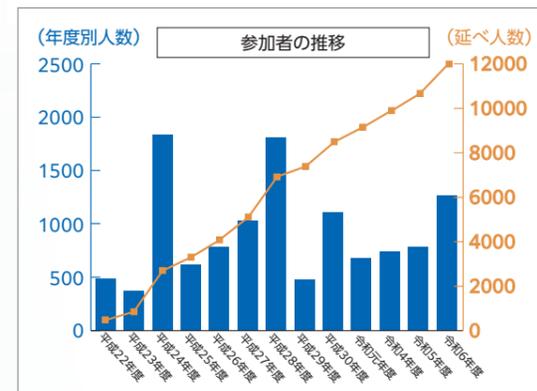
A. 以前に比べると水泳の授業は、夏場に安全かつ計画的にできなくなっています。夏休み中の利用もほとんどできません。プールの維持管理には、修繕など多額の費用がかかるため、民間のプールを活用し、経費削減にも努めています。学校プールは、今後、計画的に解体し、跡地は子どもたちの学校活動のためなどに活用していく予定です。

健康

Q. 带状疱疹のワクチン接種について、既に補助金などの取り組みを始めていますが、自治体もあるようですが、市でも補助金の検討をお願いします。

A. 東入間医師会の先生方からも2市1町に対して要望をいただいています。さまざまな場所でも要望をいただいていますので、なんとか導入できるように検討をしているところです。

高畑 博 市長





ごみ・生活環境

Q. 近くのゴミ集積所がカラスのいたずらで、ごみが散乱し、風によって家に飛んでくることがあります。ゴミボックスの設置など、市役所から要望していただけないでしょうか。

A. 環境課から連絡をし、管理を徹底するように伝えます。隣接地など、近所付き合いで伝えにくい要望については市にご相談いただければ、市が代わってお伝えしていきたいと思えます。

Q. 東京でイチヨウの枝が落下して男性が死亡したことがありましたが、市の樹木の安全性が確保されているか教えてください。

A. 公園や街路樹の設置時期などを調べて樹木医の診断を受け、危険であると判定されたものの伐採を行っています。強剪定しなければならぬ場合、保存を求める人からお叱りを受けることがあります。万が一の事故に備えなければならぬことから、可能な限り樹木の安全性を確認して行っています。

Q. 岡山県で水道水から有機フッ素化合物PFASが高濃度で検出されましたが、ふじみ野市の地下水の数値はどのような状況でしょうか。

A. PFASは、全国的に高濃度な値が検出されて問題になっています。市は国からの通知が来る前に調査を行い、1リットルあたり5ナノグラムが検出されましたが、国が定める1リットルあたり50ナノグラム以下の基準を大きく下回っており、極めて安全な状況です。

道路・交通

Q. ゲリラ豪雨で道路が冠水することがあり、不安を感じています。応急対策でも構わないので排水の対策を取っていただきたいです。

A. 現在の排水管は1時間当たり約50ミリ程度を処理できる能力で、全国的に同レベルだと思います。都内などでは100ミリ程度の大雨により溢れるようなことが起きています。台風などでは都市下水路の水量が増えてしまい、新河岸川も増水して溢れることがあります。これまで

さまざまな対策をしていますが、短時間にこれほど多くの雨が降るのは今までに経験がありません。今後どのように対策がとれるのか検討を進めたいと思っています。

Q. 道路の防犯灯が切れている場合は、どこに連絡すればいいのでしょうか。

A. 雷などの影響で防犯灯の電子基盤に影響を受けたため、市内のさまざまな箇所点滅してしまっている聞いています。市道については点検を進めており、私道についても、自治組織の防犯事業などにおいて点検していると思います。まずは、市にご連絡をいただければ、どこが対応するのかお答えします。

Q. 狭い坂道で交通量が多く、抜け道として車が多く通ります。一方通行にすることはできないのでしょうか。

A. これまでに一方通行にした道路では、交通量が増え、車の速度が上がる傾向にあります。一度一方通行にすると元に戻すのは難しいので、慎重に検討する必要があります。

地域・自治組織

Q. 自治組織の加入率は10年前に比べると58%ぐらいから45%まで減っています。加入率を上げるために市でも具体的な取組をしてもらいたいと思います。

A. 大きな課題だと思っています。市は、公平性を守らなければなりませんので、自治組織に入っていないければ、これができるかもしれません。生活が便利になってきたことも影響していて、自治組織に加入するメリットを感じなくなっていることも要因の一つだと思います。しかし、災害の時を考えてもらいたいと思っています。災害時に約600人の市職員が、11万人の市民のところへすぐ駆け付けることは難しいです。地域のことは、まずは自治組織で助け合ってもらいたいと考えています。



行政運営・まちづくり

Q. DXの推進についてですが、ふじみ野市としては今後どのように進めていくのでしょうか。

A. 市役所の業務は、DXを積極的に進め、業務の効率化を推進しています。しかし、全てをデジタルにすることがいいとは考えていません。デジタルが不得手な人もいますので、消費活性化クーポンのような全市民を対象としたものは、デジタルではなく紙で対応しています。自治組織のDX推進は、自治組織によって温度差はあるかもしれませんが、市としては、自治組織が望む方向に協力していきたいと考えています。

Q. 現役世代が減っていくと、税収の減少が予想されます。市の歳入確保として、企業誘致などの政策はありますか。

A. ふじみ野市は埼玉県内でも4番目に面積が小さく、11万人が暮らしています。その中で約3万人が65歳以上となります。三角交差点から下赤坂へ向かう



付近に工業誘致できるエリアがあるのですが、流通系の倉庫会社は都市計画法の制限により誘致することができません。土地利用のハードルが高くなっているため、頭腦的な企業の誘致を進める政策もあると思います。企業誘致も進めつつ、現役世代の人に多く住んでいただきたいと考えています。学校の整備など、若い人が魅力を感じる子ども優先のまちづくりを掲げて、今後も子育てのしやすいまちをアピールしていきます。さらに、道路の整備や、高齢者にとっても移動しやすいエリアを作っていくことで、多くの人に魅力を感じていただけるのではないかと思います。

令和7年度
タウンミーティングの予定

市内全域を対象とした8カ所の公共施設で開催を予定しています。ぜひ参加して皆さんの声をお聞かせください。
☎ 広報広聴課 (TEL 049・262・9003)